

## J-STAGE に登録されている本学会論文誌のアクセス統計の解析(3)

中野 英彦

兵庫県立大学大学院工学研究科物質系工学専攻 (671-2280 姫路市書写 2167)

## 【緒言】

本学会の論文誌である The Journal of Computer Chemistry, Japan 誌 (以後本誌という) は、通常の紙媒体で出版されるとともに、(株)ベストシステム社により提供されているサーバー上に独自にオンライン公開するのと並行して、JST (独立行政法人科学技術振興機構) によって運用されている J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム) にも搭載され公開されている。本年度より J-STAGE の「投稿および審査システム」の機能を利用し、投稿および審査の過程についても電子化を実施している。

J-STAGE からは、利用学会に対して毎月アクセス統計が提供されている。演者は一昨年および昨年の秋季年会<sup>(1)</sup>において、その統計データの解析結果を発表したが、今回その後の変化についての情報を提供し、論文投稿者の参考に供したい。

## 【方法】

J-STAGE から提供されるデータは「アクセス統計レポート」と「加工済みログ」の二種類である。前者は、J-STAGE のシステムで取得したサーバーのログファイルを、アクセス統計プログラムで集計した結果であり、「記事別レポート」、「国別レポート」、「ドメイン別レポート」などとして整理されており、表計算ソフトを利用して解析可能であり、今回の解析に利用した。

## 【結果】

記事別レポートを見れば、それぞれの記事 (論文) が、書誌事項 (要旨など)、全文 PDF ファイル、引用文献情報などのファイルごとに、1 ヶ月に何件のアクセスがカウントされたかがわかる。それらの内で、論文の内容を全文取得するという意味で、最も重要と思われる全文 PDF ファイルのダウンロード数を中心に解析を行った。

図 1 に、全論文 (第 1 巻第 1 号より第 6 巻第 1 号までの 114 論文) についての 2007 年 1 月より 6 月までのダウンロード数の月平均の分布を示す。

最もアクセス数の多い論文は 17 回/月であり、少ない論文は 0.8 回/月である。これは昨年の同時期の結果 (17 - 0.3)<sup>(1)</sup> に比べて大差ないが、平均値は昨年 2.9 回/月から今年 3.4 回/月になっており、1 年間で 17% 程度平均アクセス回数が増加している。

国別レポートによる解析の結果は、ほぼ 1 / 3 が国内からのアクセスであり残りが海外からのアクセスであるという結果は昨年と大きな変化はない。

J-STAGE からのデータには、CrossRef や Google など相互参照や検索のサイトを経由してのアクセス回数のデータも含まれておりその詳細についても報告する。

## 参考文献

- (1) 中野英彦、日本コンピュータ化学会 2006 秋季年会講演要旨集、1P02 (2006)  
 (2) 和田光俊、時実象一、田口友子、情報管理、50、20 (2007)

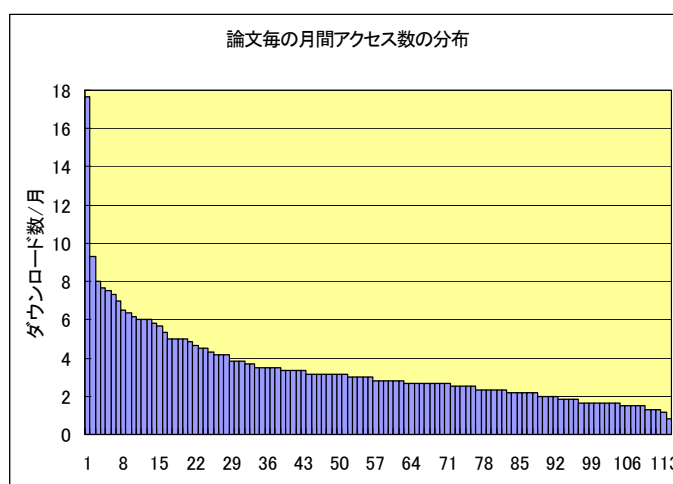


図 1 論文毎の月間アクセス数の分布